

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【七里中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	引き続き、基本的な漢字・計算・英単語・重要語句の反復練習をするために、授業内で確認テストをすることが必要である。全教科でモデルステップで既習事項の確認を繰り返すことで、知識・技能の定着を図りたい。
思考・判断・表現	カリキュラム・マネジメントを見直し、思考・判断・表現の活動時間を増やすことで、自分の考えを理由とともに説明することができるように導いていきたい。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題>令和5年度のさいたま市学習状況調査より、第二学年では国語4.7、数学4.3.2、社会4.6.8、理科4.8.1となっている。第三学年では、国語4.7.8、数学4.7.6、社会4.5.8、理科4.9.5となっている。 <指導上の課題>既習事項を確認するテストの実施数を増やすこと。	⇒ スタディサプリやドリルパーク等を活用し基本的な漢字・計算・英単語・重要語句の反復練習を行う。その成果を見るために、授業の中で確認テストをする【小単元毎に実施】。
思考・判断・表現	<学習上の課題>令和5年度のさいたま市学習状況調査より、第二学年では国語4.4.5、数学4.4.2、社会4.6.5、理科4.8.7となっている。第三学年では国語4.8.7、数学4.6.8、社会4.7.2、理科4.8.2となっている。 <指導上の課題>知識定着に時間がかかるため、思考力を育む時間が少なくなっている。	⇒ 授業の中で生徒が課題に対して情報を集めたり、グループで共有したり、考えを交換したりする活動を通して、自分の考えを理由とともに説明する場面を設定する。また、教師は思考のプロセスをコメントをつけて評価する【毎回実施】。

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	A	基本的な漢字・計算・英単語・重要語句の反復練習をするために、授業内で確認テストをすることができた。国語や数学では確認テストの頻度が高く、その成果がさいたま市学習状況調査にもあらわれていた。
思考・判断・表現	C	知識や技能の習得に時間がかかってしまい、生徒が課題に対して情報を集めたり、グループで共有したり、考えを交換したりする活動が少なかった。そのため、自分の考えを理由とともに説明することに苦手意識を抱えている生徒が多かった。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語は、前年度に課題のあった「言葉の特徴や使い方に関する事項」の平均正答率が高くなった。数学は、前年度に引き続き全分野で課題がみられた。
思考・判断・表現	国語の「書くこと」の平均正答率が高くなっていた。数学の「図形」では、三角形の合同について筋道をたてて説明する問題を苦手としている生徒が多かった。

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	昨年度と比較すると、中学2年生の国語と数学で偏差値の上昇がみられた。国語では3.5、数学が3.4上昇しており、1年間の取り組みの成果がみられた。小テストを繰り返すことで基本的な知識や技能の向上に繋がったことが推測される。
思考・判断・表現	全教科の偏差値が50を下回っており、思考・判断・表現の問題に苦手意識を抱えていることが推測される。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	基本的な漢字・計算・英単語・重要語句の反復練習を行い、授業の中で確認テストをすることができた。	変更なし
思考・判断・表現	B	情報収集、グループ共有、意見交換の時間を設定することはできたが、自分の考えに理由をつけて説明する活動を苦手としている生徒が多かった。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)